



なかざとともたけ 35歳 うるま市出身。具志川中学、具志川高校、福岡大学でソフトボール部に所属。高校3年時に九州大会優勝、大学4年時に西日本大会優勝。企業などに就職した後、5年前に「沖縄SUN」を設立。昨年からは本格的にソフトボールの指導を始める。

やる気生むユニーク指導

交流を通し支え合う心も

兄の背中を追いかけてソフトボールを始めた仲里さんは、具志川中学、具志川高校と部活を続け、高校ではキャプテンとしてチームを牽引。九州大会での優勝など実績が認められ沖縄代表にも選出、ソフトボールの特

待生として九州の大学に進学した。「ソフトボールを続けていながら、ここまで真つ直ぐ生きてこられたか分からない。ソフトボールを続けたい一心で勉強もやりました。大切な人ともたくさん出会い人生経験も深まり

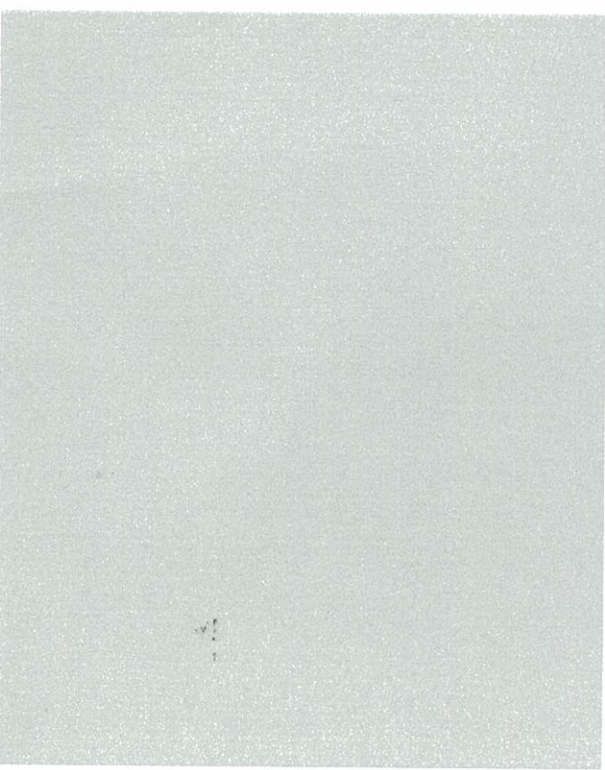
ました」

仲里さんは、30歳のときに立ち上げたスポーツサークル「沖縄SUN」の代表として、4人の大学生スタッフとともに週の大半をグラウンドで過ごしている。出張教室を基本として、嘉手納町や那覇市のグラウンドを借り、子どもたちを中心にスポーツ全般を教えている。仲里さんのスケジュール帳は、その予定でびっしり。

「休みはないですが、楽しいですよ。体育の授業などで、スポーツに自信を無くしてしまった子供たちが、楽しく取り組めるような環境を作りたい」

小学生のスポーツクラスでは、スポーツ以外にもかくれんぼや、親も参加する馬跳びなど、ユニークなメニューを取り入れて、身体を動かすことの楽しさを伝えている。障がいを持った子どもたちも一緒に交流を図っ

厳しさの中にも温かさを感じさせる指導



ている。

「スポーツなら交流もしやすく、お互いが支え合うことができます。けんかをすることもありますが、大人が仲介するのはなく、子供たちが同士で解決させています。コミュニケーションは子供同士で生まれる。僕は、お前たちががんばれよ」と離れて見守るようにしています」

ソフトボール教室では、経験者ならではのアイデアも取り入れている。

「自分も経験がありますが、中学3年で引退してから高校の部活に入るまでに半年近くブランクがあります。高校で、いきなり練習を始めると肩や肘を痛めてしまうことがあるので、ケガを防ぐ目的もあり教室を開講しました」

ソフトボールの指導方法を学ぶために、教室の合間を縫って2カ月に1回ほど県外の強豪校などに出向いているという仲里さんの夢は、高校女子ソフトボールの全国制覇。

「女子ソフトボールが活躍してほしいのはもちろんですが、県内のソフトボール人口が増える

ように盛り上げていきたいですね。自分がひとつのモデルとなり、若い指導者を育てていけたらうれしい」

取材日の奥武山公園のグラウンドには、部活を引退した中学3年の2人の少女が練習に打ち込んでいた。厳しさの中にも、時折笑顔が浮かぶ。

「練習を重ねて『自分でもやればできる』という自信を付けてほしい。子供たちが、自分のことをもっと好きになってくれることが、僕の目標です」

(草野裕樹)

クリップ

「沖縄SUN」では小学生を対象としたスポーツサークルや、中学、高校、一般も参加できるソフトボールアカデミーなど、各自のレベルに合わせたメニューが用意されている。一人一人と向き合った指導が行われ、スポーツが苦手な子供でも楽しくできるプログラムに。育成方法を指南する指導者セミナーも開催。料金や内容などの詳細は、ホームページで。

■連絡先 「沖縄SUN」 ☎098-979-5739

<http://okinawasun.com/>